

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

おん ね ない

月刊 根内 通信

2023年2月号 No.317

2月15日(水)発行

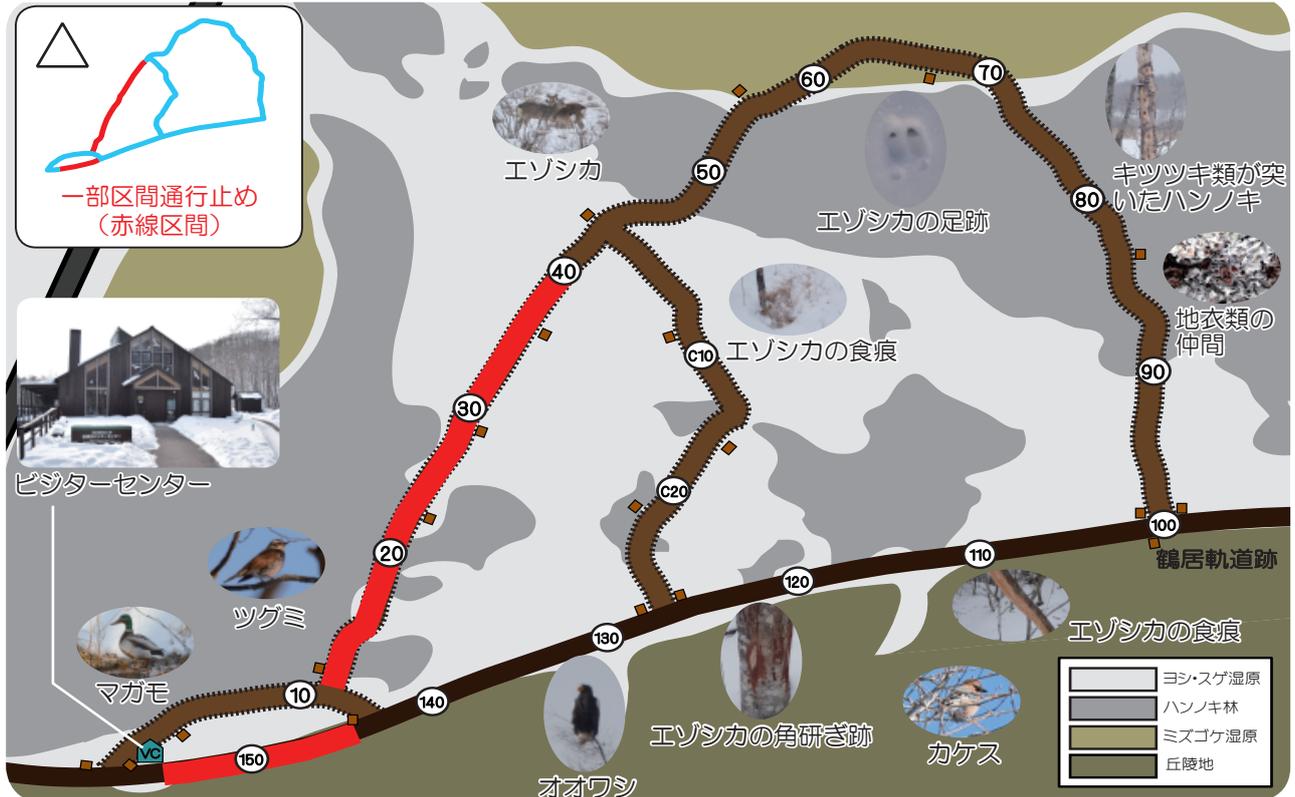


あらわになる樹皮に

生きものたちにとっては今が1年の中で最も厳しい季節ではないでしょうか。

寒風吹きすさぶ釧路湿原では、ハンノキなどの樹木が荒涼たる風景を醸し出しています。そんな樹木の表面をよく見てみると、この厳しい時期でもいろいろな生きものに出会うことができます。そのひとつが地衣類やコケの仲間。顔を近づけると、小人になって不思議な森に迷い込んだような気分になります。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然 (1/15 ~ 2/14) ☆☆☆



【エゾシカ】 シカ科 蝦夷鹿
冬期になると観察しやすくなりますが、この冬は特に多く感じます。木道沿いには彼らの残した様々な「跡」が見られます。



【エゾシカの足跡】
体重を反映して雪に深く刺さるように残ります。主蹄（青色）の後ろに副蹄（黄色）と呼ばれるヒツメの跡が残る場合があります。



【エゾシカの食痕（掘り返し跡）】
所々に雪を掘り返して何かを食べた跡が見られます。湿原内にも多く見られ、在来植物への影響が心配されます。



【エゾシカの食痕（樹皮剥ぎ跡）】
首の届く範囲の枝にこのような食痕が見られる場合があります。前歯は下の歯しかないので、樹皮をこそげ取るように食べます。



【エゾシカの角研ぎ跡】
ある程度太さのある樹木の幹に、雄鹿が角を擦りつけて手入れをします。鶴居軌道跡にはこういった傷のある樹木が複数見られます。



○表紙の写真 上：地衣類の仲間 下：キツツキ類が突いたハンノキ

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（1/15～2/14） ☆☆☆

2月も厳しい寒さが続いています。林の中ではカラ類やキツツキが必死になって餌を探しています。また上空にはオオワシ・オジロワシの姿もちらほら。でも、季節は少しずつ春に向かっていきます。来月には、渡り鳥の情報もお届けできるかと思います。



【ツグミ】 冬鳥
ヒタキ科 鶉
ツルウメモドキの実に集まっています。羽の模様が個体によって微妙に異なります。



【カケス】 漂鳥
カラス科 掛巢
スノーシューのイベント中に現れ、注目の的でした。北海道のカケスは亜種ミヤマカケス。



【マガモ】 留鳥
カモ科 真鴨
水辺の少ない温根内ではあまり見かけません。凍らない沼地で餌を探していたようです。

○温根内木道周辺で観察された鳥（1/15～2/14）

鳥（和名は日本鳥類目録第7版の順）	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24																						
1	マガモ	2	タンチョウ	3	トビ	4	オジロワシ	5	オオワシ	6	ノスリ	7	コミミスク	8	コゲラ	9	オオアカゲラ	10	アカゲラ																					
													11	クマガラ	12	カケス	13	ハシボソガラス	14	ハシブトガラス	15	ハシブトカラ	16	ヒガラ	17	シジュウカラ	18	ヒヨドリ	19	エナガ	20	ゴジュウカラ	21	キバシリ	22	ミソサザイ	23	ツグミ	24	マヒワ

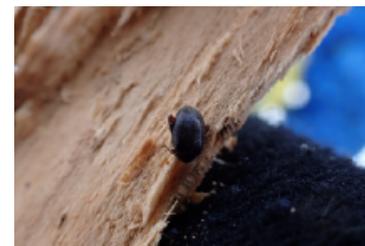
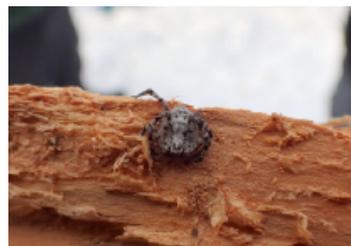
※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「湿原アニマルトラッキング」

1月15日 参加者：10名 講師：貞國利夫（釧路市立博物館）

厳しい冬の季節、鳥や動物たちはどのように過ごしているのかを探る、アニマルトラッキングを行いました。この日の講師の貞國氏からはまず、動物たちの痕跡の特徴やその判別の仕方についてレクチャーをしていただき、その後、昨日の間にうっすら新雪が積もった屋外へ。するとピジターセンターの入口に集合して早速、貞國氏が何かの足跡を雪上に見つけました。エソタヌキの足跡で、よく似ているキタキツネとの特徴の違いについても解説いただきました。続いて鶴居軌道跡を歩いていくと、キツツキの仲間が突いた跡が生々しい、枯死したカラマツがありました。この樹皮を少し手で剥がしていくと、中から小さな昆虫やクモが発見されました。こういう虫を鳥たちは食べて、厳しい冬を凌いでいることがよくわかりました。そのほか湿原では、実物は滅多に見られないネズミ類やイヌナシの足跡も見



↑ 樹皮の裏に潜っていたクモや甲虫の仲間

○「湿原の裏山でスノーシューハイク」

2月5日 参加者：11名 講師：藤原伸也（温根内ビジターセンター指導員）

普段は歩けない、ビジターセンター裏にある丘をスノーシューで登りながら、雪で覆われた自然を満喫するスノーシューハイクを開催しました。館内でスノーシューの着脱方法や歩き方のコツなどを学んだ後、屋外に出て裏山登山を開始しました。登るにつれて坂の傾斜は徐々にきつくなっていきましたが、スノーシューの扱いに慣れてくると、参加者は周りの風景や生きものにも気を配れるようになっていきました。そのおかげで、この日は木の枝に止まりこちらを窺うカケスや、2頭のキタキツネの姿を確認することもできました。そのほか、木道周辺ではなかなか目にしない、ヤマウルシやツルアジサイといった樹木を間近で観察しました。また、木の根元から点々とつく何かの足跡が見られ、その大きさや歩幅などから、どんな動物が付けた足跡なのかを参加者に想像してもらいました。最後は湿原に



下り、丘陵地から染み出る湧き水を観察し、湿原と森との関係を探りました。新雪の積もるスノーシューハイクを満喫した1日となりました。



☆☆☆☆ 歩くスキー・スノーシュー 無料レンタル中！ ☆☆☆☆

今年も、歩くスキー・スノーシューの無料レンタルを開始しています。ご希望の方は、館内の案内カウンターまでお越しください。現在、工事のため通行できない範囲がありますので、職員の指示に従ってご安全にお楽しみください。なお、雪の状態によってはレンタルを中止する場合がありますのでご了承ください。



○自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪温根内の歴史を探訪しよう

〔日時〕3月19日（日）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

野外を散策しつつ、過去の貴重な写真などから温根内周辺の現在までの歩みを紐解きます。



○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪塘路フィールドウォッチング～晩冬編～

〔日時〕3月4日（土）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～帰る前に今一度…～

屋外が寒くても、しばらく木道を歩いたり館内で休んでいたりと、少し暑くなる時があります。その際、脱いだ上着やマフラー、サングラスといった衣類・装飾品を置いたままにしないよう、ご注意ください。

特に手袋の忘れ物が大変多いので、お気をつけください！

月刊 温根内通信 No.317

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

fFacebook: [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間: 9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日: 毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料